

もつと現場にジェンダー平等の視点を



フォーティエンス
コンサルティング株式会社
(旧株式会社クニエ)

三浦 雅子 さん
Miura Masako

大阪府出身。京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了後、JICA海外協力隊や人道支援NGOなどでの勤務を経て2019年より現職。ジェンダー、人権の分野を中心に、ODA関連事業のコンサルティングに従事

「誰一人取り残さない世界」の実現に向けて、
多様性を尊重する国際協力の在り方が今、問われています。
誰もが当事者となるジェンダー平等の視点を取り入れる動きについて、
この分野を専門とするコンサルタントの三浦さんに聞きました。

モヤモヤが消えた

兄と弟の3人兄妹で育ち、両親は分け隔てなく教育を受けさせてくれました。ただ、私だけ家事を手伝うように言われたり、なぜかと聞いても「男の子は家事ができないから」と返ってきたりすることに對して、うまく言葉にできないモヤモヤを感じていました。そんなとき、高校生のころ、図書館の棚で「ジェンダー」というタイトルが含まれた本を手にしたのです。私が疑問に思っていたことに名前がついていて、研究している人がいると知ったことが、ジェンダーに興味を持ったきっかけです。

大学で社会学やジェンダーの基礎を学び、大学院では明治時代の売買春制度をテーマにジェンダーの研究を進めました。その後、博士号を取得しようかどうか悩んだのですが、修士課程で学んだことを実務に活かしてほしいという恩師からの言葉もあり、机上ではなく現場での実務経験を積むためにJICAの青年海外協力隊(現:海外協

力隊)に応募。バン格拉デシュで、母子保健の技術協力プロジェクトをサポートし、村々を訪ね、妊婦が安心して出産できる仕組みづくりに携わりました。

自分の考えの狭さを痛感

協力隊時代の2年間の経験で、何よりも感じたのは、自分自身のジェンダーに関する考え方がとても狭かったことです。バン格拉デシュは多くの女の子たちが幼いまま結婚を強いられるなど、客観的なデータからみて、ジェンダー平等が十分に進んでいない国と認識していました。

ある日、私が住むアパートの大家さんに家賃を払いにくくと、外から鍵が掛けられていました。家のなかには、大家さんの妻がいて、外に出られない状態でした。私はびっくり夫が妻を閉じ込めているのかと思いました。しかし、妻が「夫は、外から鍵をかけて私を守ってくれている。自分の自由が奪われているとは全然思っていない」と言うのを聞き、自分の認識が偏っていたことに気づきました。

西洋的な価値観を押しつけるのではなく、現地の人々の生活や考え方を理解した上で、ジェンダーの問題に対してどんなアプローチが必要なのかを考えることの重要性を痛感しました。

支援の対象は女性に限らない

協力隊の任期を終え、帰国後はNGOで人道支援に携わった後、国際協力の分野でジェンダー平等に関わりた



パキスタンの児童養護施設で、多様なSOGIESCを持つ子どもへの対応を調査する三浦さん(右から2番目)



「ジェンダー平等の視点を支援現場に根づかせるには現地担当者との対話が必要」と三浦さん(左)

と思い、現在のポストに転職しました。これまで、ケニアなどアフリカ数カ国でのジェンダーに基づく暴力に関する調査や、東南アジア・メコン地域での人身取引撲滅に向けた取り組みなど、主にJICAが実施するジェンダー関連の調査や技術協力プロジェクトの実務者として関わってきました。そして昨年実施したのが、性的指向・性自認といった多様なSOGIESC(Sexual Orientation, Gender Identity and Expression, and Sex Characteristics)を持つ人々が開発支援のなかで取り残されないようにする仕組みづくりに関する調査です。ジェンダー平等に向けた支援の対象は女性だけに限りません。

例えば、パキスタンには、出生時に割り当てられた性は男性ですが、自ら

は女性と認識する「クワジャシラ」と呼ばれる人々がいます。政府より第3の性として認められているものの、差別を受けた後、平等に社会サービスを受けられることができなかったりします。

これまでの国際協力は、主に「女性」「男性」という二元的なジェンダー分類に基づいて実施されてきたので、多様なSOGIESCを持つ人々の存在やニーズは十分に認識されず、支援の枠組みから取り残されている状況です。そのためこの調査では、これからの国際協力のなかで多様なSOGIESCを持つ人々の視点に立った取り組みを促進していくためのガイダンス・ノートを作成しました。ただ、それらの取り組みをこれからどのように実行していくかが重要です。国際協力の実務者にとっても、どのように対応していくか手探りの状態で、時間はかかりますが、「誰一人取り残さない」世界の実現に向けて、不可欠な取り組みです。

多様だからおもしろい

国際協力において、ジェンダー分野での取り組みが他の分野と一番大きく違う点は、すべての人が当事者であるということだと思います。ジェンダー平等においては、女性、男性だけでなく、すべての人が自身のジェンダーに基づく不平等な影響を受けないことが一番

大事です。

「ジェンダーとは何か」という問いに対しては、研究者のなかでも100人に訊くと100通りの回答があるほど、そのとらえ方は多様です。そのなかで誰もが納得できる方法を考えていくのが、ジェンダーという分野のおもしろさでもあり難しさでもあると感じています。

ジェンダーを専門として国際協力に取り組みむ人は少しずつ増えています。課題は山積しています。ぜひ多くの方々がこの分野に進んでくれればと思っています。

フォーティエンス
コンサルティング株式会社
(旧株式会社クニエ)

設立 2009年7月1日
従業員 1,200人
〒100-8101
本社 東京都千代田区大手町2-3-2
大手町プレイスイーストタワー11F

ホームページ



詳細 ▶ p134

FORTIENCE
CONSULTING